

人口に占める外国人住民数全国3位。他人事ではない。三重県で外国人と共生する方法。

# READER

リーダ-

2014

08

2014年7月25日発行  
通巻188号



知ってる?  
となりの  
外国人



「三重ぐるり」のコーナーでは、毎号テーマを1つ設け、そのテーマに沿った三重県内の市民活動団体を紹介しています。今号のテーマは【在住外国人】。

在住外国人の人権、外国籍の子どもの教育、多文化共生、異文化交流、国際交流などをキーワードに県内各地の市民活動（支援）センターと連携をし団体の方にお話を伺いました。気になる団体や活動は三重ぐるりりでチェックしてくださいね。

## ASANTE SANA (アサンテ サアナ)

情報提供：特定非営利活動法人 みえきた市民活動センター



学習風景です。

ASANTE SANA (アサンテ サアナ) は、スワヒリ語で「どうもありがとう」と、という意味です。外国の方への日本語支援教室と、外国人児童への学習支援教室をボランティアで開いています。私の住む地域には、外国の方が多くみえます。でも、なかなかお互い交流を持つ機会がありません。その理由の一つに、「お互いの言葉が理解できない」ということがあります。でも、外国の方が日本語を勉強したくても、私の住む地域には学びの場がありません。そこで、「日本語教室を作って、外国人の方と交流を持とう」と思って、会を立ち上げました。日本語を話せなければ、日本人の知り合いはなかなかできません。日本語が読めなければ、日本での暮らしはとても不自由なものです。だからこそ、日本語を知りたい方たちに、少しでも日本語向上のお手伝いができれば、と思っております。そして、「日本に来てよかったな」としてもらえよう、私たちは応援しています。

ひと言 PR!

今までに、ブラジル、ペルー、中国、インド、ロシア、ベトナム…など、たくさんの国の方と交流してきました。桑名で世界の方と知りあえる、とても楽しい会です。興味のある方は、ぜひ一度、覗いてみてください。

桑名市 ☎ 090-6079-4343 ✉ hibino@orion.ocn.ne.jp

## 日中友好協会四日市支部

情報提供：四日市市なやプラザ運営委員会

「外国の人が、ごみを規則通りに捨ててくれない」と地域の方から相談があると、市や県の窓口を紹介したり、以前は会員に頼み、わかりやすい中国語のパンフレットを作ったりしました。また、四日市日本語学校で学ぶ学生を設立時(1991年)から支援しています。当初は天津市(四日市市の友好都市)からの方ばかりでしたが、現在は、ベトナム、中国、ペルー、韓国、台湾、アフリカなど多様。みなさん本当にまじめで午前は勉強、午後はバイト。日本語検定2~1級に合格して大学に進学します。せっかく日本にいても、ほとんど遊びに行けない彼らのために年に一度、お花見会(日用品が当たるビンゴゲーム、焼き肉パーティー)や「日帰りバス旅行」で、日本の素晴らしい場所を觀てもらい、喜んでもらっています。今、日中は政治的にぎくしゃくしています。最近も知人が恐ろしく中国に行ったが、とても良くしてもらい驚いたそうです。マスコミにあおられずに、人間と人間、こうした交流を持って、お互いの理解を深め仲良くすることが一番だと思えます。



「お花見会」の思い出も差し入れ持って参加します

ひと言 PR!

資金は、会員が四日市でのお祭り等で肉まんやお菓子を売って作ります。日用品(石鹸、タオルなど)が不足しています。寄付など大歓迎です。

四日市市諏訪町9-18 ☎ & FAX 059-354-0620

## 公益財団法人 鈴鹿国際交流協会

情報提供：鈴鹿NPOサポートセンター

海外旅行に行ったとき、ジェスチャーを交えながら拙い外国語でも一生懸命説明したら現地の人が理解しようとしてくれた経験はありませんか。日本で生活している外国人の日本語力はそれぞれ違いますが、日本語を使ってコミュニケーションをとろうとしているときは、まさしく私たちが海外で経験したような場面です。日本での生活が長くなっている人も増え、やさしい日本語でなら、コミュニケーションをとれる人が増えてきました。日本社会において在住外国人が増加するに伴い、各言語でのお知らせも充実してきましたが、日本語で話してみたとき通じない言葉をやさしい言葉に言い換えたり、絵をかいてあげることで分かり合えることがたくさんあります。私たちは、やさしい日本語での広報の発行や、料理を通して在住外国人の文化に触れる活動、日本人と外国人が一緒になって実施する交流イベント等を行っています。



国際交流フェスタでは、心を一つにしてワカ国語で歌いました。

ひと言 PR!

地域に住む外国人の皆さんが、社会に溶け込み日本人と仲良く、楽しく過ごせるよう活動しています。多文化共生、国際交流に興味ある方は、国際交流協会に遊びに来てください。

鈴鹿市神戸1-18-18 ☎ 059-383-0724 ✉ sifa@mecha.ne.jp

## ゆうあい日本語の会

情報提供：特定非営利活動法人 なぱりNPOセンター



2014年春の交流会(お花見)の様子。

伊賀市総人口の外国人の占める割合は4.44%(平成24年度現在)。定住化が進んでいく中で、日本語の読み書きができない、病院や行政などの専門的な日本語が分からないといった外国人が多く、日本語が分からないために行政サービスを利用することや日常生活上での必要な情報を得ることができないなどの問題が出てきています。さらにコミュニケーション不足から地域の中で孤立してしまうという状況が生まれています。こういった諸問題のために「ゆうあい日本語の会」は日本語指導を架け橋とする国際交流を目標として2000年に設立し在住外国人の日本語指導を行ってきました。さらに現在は正しい日本語を教えるために知識と技術を身につけた日本語指導者の人材の養成も行い、在住外国人の現状への理解を深め、多文化共生の理念を身につける活動をしています。今後の課題として在住外国人と行政、ボランティア団体とのネットワークを深め、さらに、在住外国人を支援できるしくみづくりをしていきたいと考えています。

ひと言 PR!

ALT(外国語指導助手)や、結婚を機に来日するなどさまざまな理由で日本語を学びたい外国人に日本語指導を行っています。交流会も開催していますので日本語を学びたい方、お気軽にご連絡ください。

☎ 0595-64-2080(岡村)

## 特定非営利活動法人 伊賀の伝丸

情報提供：伊賀市ゆめぼりすセンター

三重県は約 100 カ国の外国人が暮らす多文化な地域です。1999 年「心とこころを伝えてまわる」を合言葉に団体を設立、外国人とのコミュニケーションのお手伝いをしています。約 10 言語の外国語とやさしい日本語（日本語が堪能でない人にも理解しやすい日本語）での通訳翻訳事業を中心に、語学講座や無料生活相談、多文化理解講座などを行っています。



多言語読み聞かせ会開催の様子

ここ数年力を入れている事業は 2 つ。1 つは、「外国人を含めた地域住民が、ご近所づきあいを通じて災害時にも助け合える関係を築くお手伝い」です。「巻き寿司講座」で日本文化を紹介しつつ一緒に食事をして、顔見知りになる。こんな企画を成功させるために、一昨年、外国人の誘い方や多言語チラシの作成方法を掲載した『多言語コミュニケーション応援キット』を作成しました。2 つ目は「外国にルーツのある子どもたちへのサポート」です。学習支援や多言語絵本の読み聞かせの活動では、きらきら輝く子どもたちの目に元気をもらいつつ活動しています。

ひと言  
PR!

「言葉の壁をのりこえて、ともに住みよいまちづくり」をコンセプトに、会員 56 名と通訳登録者約 150 名と活動しています。伊賀市だけでなく、津市や木曾岬町など県内各所に出発します。見かけたときは、ぜひ声を掛けてください!

伊賀市上野東町 2948 ☎ 0595-23-0912 ✉ info@tsutamaru.or.jp

## 初期日本語教室「きずな」

情報提供：津市市民活動センター



市民ボランティアと創る学びの空間

津市では、市内に住む日本語が全く話せない外国人児童・生徒に対して、平成 24 年 4 月より初期日本語教室「きずな」を開設しました。毎日 2 時間ほどのマンツーマンの指導による日本語指導を行っております。現在、60 名を超える幅広い年代の人々に市民ボランティアとして関わっていただいています。初期日本語教室「きずな」に通室する子どもにとって、日本語を学ぶ場でもあり、さまざまな人とのつながりを実感できる場にもなっています。市民ボランティアにとっては、子どもたちとのふれあいや、自身の外国や外国人へのイメージが見直されるという多文化共生を促進する側面も併せ持っています。今では、津センターパレス内の初期日本語教室「きずな」に通えない子どもたちのために、在籍校で初期の日本語を学ぶ「移動きずな教室」も実施し、日本語を必要とするすべての子どもたちが学べるように今後も活動していきます。

ひと言  
PR!

日本語指導ボランティアを募集しています。ぜひあなたの力を貸してください!

津市西丸之内 23 番 1 号  
津市教育委員会事務局人権教育課（担当：大西、増地、浦田）  
☎ 059-229-3249 ✉ L2874@city.tsu.lg.jp

## 松阪国際交流協会

情報提供：松阪市市民活動センター



「いっぽ教室」のようす

松阪国際交流協会は、県内でも珍しい民間主導の国際交流協会です。英語圏との交流、ホームステイ受け入れを目的に、1992 年に設立されました。しかし設立当初 1000 人未満だった松阪在住の外国人数は 3500 人以上へと増加。フィリピンを中心に

アジア、南米など、多国籍化が進んでいます。そこで近年では現在松阪に住む外国人が抱える問題にスポットを当て、教育委員会との連携で「外国人児童へ向けた日本語指導」に取り組んでいます。外国人の子どもが就学時期に日本語が話せず、学校で孤立しがちである、という教育現場の課題を解決しようとするもので、子どもたちの「最初の一步」をサポートする「いっぽ教室」と名付けています。対象は保育園児から中学生まで。学校がある日は毎日（午前中）、ボランティアスタッフがゲームなどを交えながら、楽しく、日本語や日本の生活習慣が分かるプログラムで、マンツーマンの指導にあたっています。この教室に来ることで、子どもが明るくなり、学校に楽しんでいくようになった、などの成果も表れているようです。

ひと言  
PR!

今年 9 月 19 ~ 21 日にベトナムの学生が来日します。現在、松阪市近郊でホームステイの受け入れをしてくださる方を募集しています。詳しくは、同協会へお問い合わせください。

松阪市黒田町 98 ☎ 0598-21-5126 ✉ http://www.m-ifa.net/

## NPO 日本語支援「てらこや塾」

情報提供：いせ市民活動センター

来日して間もない児童生徒に、初期適応の日本語教育を速やかに行うことは、学校生活をともにする日本の子どもたちにとっても大事なことです。ところが、この課題解決への展望がなかなか見えてこない現状があります。ならばと慶蔵院「てらこや塾」で予算を組み、過去 3 回、集中的に 3 カ月間、3 人の外国人児童に午前中 3 時間の日本語指導を毎日行ってきました。しかし、その取り組みが公的に必要なものとして理解されるには至っていません。ベトナムでは第二外国語として中学・高校で日本語が学ばれ、日本語学習熱はますます高まっています。「てらこや塾」では、全国から支援をいただいて、「スカラシップの会」として、ベトナムから無償で 6 週間、中高生を日本に迎え、日本語指導を行っています。今年で 4 回目、計 19 名が来日しました。行政にはこのような民間が持っている「ちから」をもっと活用できるよう、地域連携を強めてほしいと願っています。



お寺（慶蔵院）の一室で勉強をする子どもたち

ひと言  
PR!

「てらこや塾」では、外国人児童生徒および地域の外国人に無料で日本語教育の支援を行っています。併せて、学習支援も実施しており、そこには日本人の児童生徒も無料で、毎日勉強に来ています。

伊勢市小俣町元町 1211 ☎ 0596-22-3726

## 三重県の外国人住民数は全国でも上位！

年	三重県における外国人住民数	人口比
平成 20 年	53,082 人	2.78%
平成 21 年	49,076 人	2.58%
平成 22 年	46,817 人	2.47%
平成 23 年	45,547 人	2.41%
平成 24 年	41,811 人	2.23%
平成 25 年	41,221 人	2.21%

平成 25 年 12 月末日時点での三重県における外国人住民数は 41,221 人（三重県環境生活部多文化共生課外国人住民国籍別人口調査\*1）となっており、5 年連続で減少傾向にあるものの、県内総人口に占める外国人住民の割合は 2.21%で、全国的に見て上位\*2 となっている。

\*1 各市町の住民基本台帳に登録されている外国人住民数をもとに、三重県が集計したもの

\*2 法務省「在留外国人統計」においては、人口に占める割合は 2.33%で全国第 3 位（2012 年末）

## 在住外国人の受け入れをめぐる「言葉や文化の違い」から起きていること

「自分たちの住むまちに外国人が住んでいる」—。これはもはや当たり前の時代である。では「受け入れる体制」はできているだろうか。外国人住民を受け入れる中での課題はさまざまな分野で浮き彫りになっている。

人口の 15～20%をブラジル出身の住民が占めている三重県四日市市の笹川地区では、ゴミの出し方、駐車マナー、騒音など生活習慣や文化の違いによる日本人住民との摩擦が生じている。これには日本人住民が、外国人住民に日本の習慣や公共の規律に合わせた行動を望むのに対し、ブラジル人住民はブラジル人の考え方や生活スタイルをもっと日本人に理解してもらいたいと考えているという背景がある<sup>3</sup>。

言葉や文化の違いによる双方のコミュニケーション不足、ブラジル人住民の日本語を習得するには難しい環境や日本語学習への姿勢などが、このような双方の意識の相違につながっていると考えられる。

\*3 三重大学人文学部・多文化共生研究班調べ「多文化共生に向けて—笹川地区の住民アンケートから—」

平成元年（1989 年）に成立、翌平成 2 年に施行された改正「出入国管理及び難民認定法」により、いわゆるニューカマーと呼ばれる日系南米人を中心とした出稼ぎ労働者とその家族が多数来日するようになって 20 年余が経過している。

海外からの低賃金労働力が必要であったときに、日本はそうした労働者に門戸を開いたが、2008 年のリーマンショック以降、景気が減速すると解雇などにより外国人労働者の数は減少傾向に向かった。しかし政府は今、建設や医療・介護などの国内で人手不足となっている分野に海外からの労働力を導入す

ることで、日本の人口減少による生産力低下に対応しようとしている。

戦前後より日本に暮らすオールドカマーが「特別永住者」の資格を持ち定住しているのに対し、ニューカマーは一時的なデカセギとされてきたが、近年は、ニューカマーの人々も定住化傾向にある。在住外国人の滞在期間が長期化するにつれ、教育現場においては、外国籍の子どもたちが増えている。三重県では、日本語指導の必要な子どもたちが小中学校過程で 1,701 人在籍しており（小学校 1,214 人、中学校 487 人、学校数のべ 209 校／平成 25 年 9 月 1 日現在）、県内の公立小中学校における日本語指導が必要な外国人児童生徒の在籍率は、全都道府県中、最も高い数値となっている。生活習慣や文化の違いや言葉が話せないことで、学校になじめなかったり、授業についていけず不登校になったり、将来的に就職ができないなどの問題を抱えることもある。

これまでに述べた言葉や文化の違いによる住民間や教育現場での摩擦が生じている背景は、個人レベルのコミュニケーションの問題だけではなく、言葉を誰が教えるか、通訳の人材をどう確保するかといったことを国で議論し、予算化するといったようなサポートする仕組みを準備しないまま、制度や体制や法律が整っていない・・・つまり「異なる価値

観・文化を持つ人たちを受け入れる体制ができていない」状況で、外国人の受け入れを開始しているという背景が考えられる。そこに、日本が外国人を受け入れざるを得ない現実がぶつかっている。

このような状況で、在住外国人が日本人住民と同じように生活するためには、先に述べた教育のほかにも医療、雇用など多くの面で解決すべき言葉や文化の違いから派生する課題がある。

言葉を覚え、日本の習慣を理解することで、より「生活者」として、安定的な生活を送ることが期待できる。ニューカマーの受け入れを開始してから20余年。その間外国人住民のサポートを市町単位の取り組みやNPOなどの非営利の活動や市民のボランティアに頼ってきた部分も大きい。

四日市市教育委員会では、日本語の習得が不十分な外国人児童生徒に対し、日本語の初期指導・学校への適応指導等を集中的に行うための初期適応指導教室「いずみ」を設置している。また、各小中学校で日本語以外の言語によるサポートの必要な子どもがいれば、市に28名いる「外国人幼児児童生徒適応指導員」を各校園に派遣して、授業中の支援を行うほか、学校通信や学級通信などの翻訳も行っている。「いずみ」のほか、三重県内の初期適応指導教室の多くでは、公益財団法人三重県国際交流財団が発行し、三重県内の教育機関へは無償で配布されている初期日本語学習教材『みえこさんのほんご』と『読みえこさんの日本語』をテキストとして使っている。同財団では他にも多言語による日常生活の相談への対応や外国籍親子のための進学ガイドブックの作成など、言葉や文化の違いによる進学や就職への壁がなくなるようサポートしている。

総人口に占める外国人住民数の割合が県内で最も高い伊賀市で、通訳事業をベースとして在住外国人が感じる言葉の壁を少しでもなくそうと活動する特定非営利活動法人伊賀の伝丸の代表理事・和田京子さんは、「通訳、行政情報や地域情報の翻訳、多岐にわたる生活相談において専門性を持っているのがNPO。地域と行政であったり、地域と個人をつないでいくのもひとつの役割」と社会的に弱い立場にいる人の不安や悩みに寄り添い、課題と向き合うNPOの力を伝える。在住外国人の支援策が制度や法律で定められていくことで、「市町や地域でサポート体制が整えやすくなる。現に雇用における年金や保険未加入などの問題は、労働分野での法律が厳しくなったことと外国人住民自身が知識を得たことによりだんだん改善されてきてはいる」とNPOの現場で肌で感じることを指摘する。「物でなく人を受け入れているのだから、ゴミを出す、買い物をする

などの日常生活が当然ついてくる。外国人住民は助けてあげないといけない存在ではなく、彼らが暮らす地域で一住民として本来持っている力を発揮できるようにしていくのがNPOや地域の役割であると思う」と、多様な文化的背景を持つ人がいて世界につながっている地域の価値とこれから目指していくべき共生社会について話す。

「外国人住民を受け入れる体制ができていない」とは、「日本社会が外国人住民の生活を守り、権利と基本的人権を保障することができていない」と置き換えることができる。日本人は自分たちの都合で貧困層を生みだし、社会自体を不安定にしている側面もあり、法律や制度によって、在住外国人を教育・医療・雇用・生活の面で受け入れる体制をつくっていく必要がある。基本的な人権が保障された上で、言葉や文化の違いによる壁が低くなることで初めて在住外国人は日本社会を認めることができるのではないか。在住外国人を取りまく現状の問題の解決が社会の課題であることを明確に位置づけ、実態に見合う制度的な保障とそれを正しく運用していく環境の整備が必要である。

(三好)

<取材・資料提供ご協力(順不同)>

- ・三重県環境生活部多文化共生課様
- ・三重県教育委員会事務局小中学校教育課様
- ・三重大学人文学部・多文化共生研究班様
- ・四日市市教育委員会指導課様
- ・公益財団法人三重県国際交流財団様
- ・特定非営利活動法人伊賀の伝丸様



# クローズアップ

—協創のヒント集—

県民が力を合わせることによって、地域社会で「今までできなかったことができるようになる」ために大切なヒントを毎月ご紹介します。

ヒント14

## 地縁団体相互が連携する

地縁団体には、地域全般に関わる自治会をはじめ、子ども会、老人会、民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会、自主防災組織など、専門分野に分かれたさまざまな団体があります。これらの団体はそれぞれの行政の担当部署とのつながりが深い半面、地域の課題を解決するために地域レベルでの横の連携をとる必要性がいわれているものの、実際にはあまり連携がとれていない地域が多いようです。

子育て、高齢者・障がい者支援、防災など、地域ぐるみで取り組まなければならない課題は増加しています。この解決のためには、さまざまな専門性のある地縁団体の連携が不可欠であり、団体相互の連携が有機的に動き出せば、住民による主体的な問題解決力は大きく成長します。

このため、地縁組織相互の連携が進むための取組を行います。

引用：『夢をかたちにするまちづくり～新しい公共』のヒント集～  
(三重県・新しい公共円卓会議／2013年3月発行)

## 事例

- 1 地縁団体相互の「市レベルの地縁団体連絡会」(四日市市)  
実施主体 四日市市(自治体)
- 2 産業から互助活動まで  
「ビジョン早田(はいだ)実行委員会」(尾鷲市)  
実施主体 ビジョン早田(はいだ)実行委員会(地縁型NPO)
- 3 2つの住民協議会の連携「海と山の交流」(松阪市)  
実施主体 松ヶ崎まちづくり協議会、  
宇気郷住民協議会(地域コミュニティ組織)
- 4 地域の力を集めて実現「千里(ちさと)きさ わらい」(津市)  
実施主体 河芸町千里ヶ丘地区社会福祉協議会

## 活動のぞき見隊

Vol.13

NPO法人市民社会研究所が運営する「伊勢おやき本舗」が、5月27日、四日市市諏訪栄町のグリーンモール商店街にオープンしました。このお店は「ユニバーサル就労」を目的にしており、同NPO法人が運営する北勢地域若者サポートステーションと連携し、障がいを持った方、高齢の方、小さい子どもがいる方など、働きたいのに働きにくいという悩みを抱えている方に自分らしく働ける場を創造しています。

お店では、伊勢ひじき、菰野のマコモダケ、伊勢茶などの地元産の原材料にこだわった三重の新名物「伊勢おやき」の製造と販売を行っています。



近鉄四日市駅から徒歩5分程度。グリーンモール商店街の一角で「伊勢おやき」の看板やのぼりが目に入ります。イメージキャラクターは日本神話のアメノウズメをモチーフにしており、ほのぼのした愛嬌のある表情をしています。



接客担当のスタッフは、お客さんとの会話を楽しんだり、試食を勧めたりしながら、注文を聞きとり、お会計を行います。店内で召し上がる方へのお茶のサービスもあります！



現在の伊勢おやきは、手裏剣型のエンジンの飾りがかわいい「忍者」、三重県産鶏つくねが子どもにも人気の「岩戸」、伊勢茶の生地と中身の餡の相性が抜群の「餅街道」の3種類。三重県の歴史や文化にちなんだネーミングと見た目が光ります。



厨房担当のみなさん。この日はすでに製造が済んだところで、調理器具の後片付けの真っ最中！冗談を言い合いながら、和気あいあいと働かれている様子が印象的でした。

## 記者の雑感

記者・三好

店長の坂野さんは、「これまででは試食会のみで、販売を行うのはお店がオープンして初めてのこと。お金を払って買ってもらうということにドキドキし、より責任を持ってやっていかないとけないなと感じます。」と、お店オープン時の心の内を聞かせてくださいました。

働きたいけど働きにくいという人が一歩踏み出すことのできる場所として、「私もここで働いてみたい!!」という輪が広がるような場所であってほしいと感じました。7月からは、東名阪自動車道・御在所サービスエリアなどでも伊勢おやきの販売を行っています。おやきを買うことで人や団体の支援につながると思うと「買っておいしい、食べておいしい」と笑顔になります。

<製造所> 伊勢おやき本舗 〒510-0086 三重県四日市市諏訪栄町3-4 グリーンモール商店街 星座ビル  
TEL・FAX: 059-355-5115 (日曜、月曜休み) ホームページ: <http://iseoyaki.com>

<製造者・販売者> 特定非営利活動法人市民社会研究所 〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200 四日市大学内  
TEL・FAX: 059-363-3539

## 300以上のデータからみるリアルな助成金講座を開催！



山田泰久さん（NPO 法人 CANPAN センター常勤理事）を講師にお招きして、去る6月13日に「リアル助成金講座」を開催しました。

昨年度開催した「助成金申請書の書き方」の基礎的な講座からもう1ランク上の内容をと、獲得から活用までのリアルな助成金の獲り方・使い方に焦点を当てた講座を企画しました。

講師が助成金を審査する側でもあり、年間300以上の助成金データをチェックされていることから、さまざまなデータを用いて、助成金の選び方、計画のたて方、助成金を獲得した後どのように報告をするのか、審査するときのポイントなどを話していただき、より実践的な内容となりました。

## 8月号から大幅にリニューアル！



本情報誌をご存知なかったり、ご覧いただいていないという方が多いというアンケート結果を受け、8月号から大幅に誌面のリニューアルを行いました。社会的な課題の解決に対してさまざまな活動をしているNPOを少しでも皆さまに知っていただきたいと試行錯誤しております。

今号から特集テーマを定め、それに沿った内容で構成することにしました。皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

## イベント情報などの発信に ぜひホームページをご活用ください



市民活動団体の皆さまからお寄せいただいたイベント情報やボランティア募集情報は「みえ市民活動ボランティアセンター」のホームページ (<http://www.mienpo.net/center/>) に掲載しております。掲載を希望される方は、内容などをメール ([center@mienpo.net](mailto:center@mienpo.net)) か FAX でご送付いただくか、窓口までご持参ください。

## 「NPOに関するQ&A」を気軽にご利用ください！



みえ市民活動ボランティアセンターカウンター正面の入口近くには、黄色い紙に印刷された「NPOに関するQ&A」がずらっと並んでお出迎えしております。「NPOとは何か」「NPO法人を設立するには」「NPO法人を運営していくために」の3つの分野に分かれている20種類の一問一答形式の用紙があり、どなたでもお持ち帰りいただけますのでぜひご利用ください。

## 助成金情報

① 締め切り・募集期間 ② 対象 ③ 助成金額／表彰内容

### 三重県遊技業協同組合 「第12回MPドリーム」 (ボランティアグループに必要な資金を助成)

① 8月20日(水) 17:00 必着 ② 三重県内に拠点を置くボランティアグループ ③ 20万円以内/グループ (40グループ以内)

### 日本フラワーデザイナー協会 「平成27年度 NFD one leaf fund 募集」

① 8月31日(日) 当日消印有効 ② 植物保護、環境保全の調査・研究、環境福祉活動を行う団体・個人  
③ 80万円/件を限度(総額300万円)

### パートナーシップ・サポートセンター(PSC) 第9回「企業&NPO協働アイデアコンテスト」募集

① 8月31日(日) エントリー期限 ② 中部広域9県に所在するNPO団体(法人格不問) ③ 賞金 3万円~20万円(5団体)

### 住友生命 「未来を強くする子育てプロジェクト」子育て支援活動の表彰

① 9月9日(火) 必着 ② より良い子育て環境づくりに成果を上げている個人・団体 ③ 表彰状、副賞50万円~100万円(15組程度)

### かめのり財団 「第8回かめのり賞」募集(日本とアジア・オセアニアの相互理解・交流の促進、人材育成に貢献する活動を顕彰)

① 9月12日(金) 必着 ② 5年以上の活動歴を有する任意団体、NPO法人等 ③ 記念楯、副賞50万円(10件まで)

### 大和証券福祉財団 「第21回ボランティア活動等助成」(在宅老人、障がい児・者、児童問題に対するボランティア活動助成)

① 8月1日(金)~9月15日(月) 当日消印有効 ② ボランティア活動を目的とする団体・グループ ③ 30万円/団体を上限(総額3,500万円)

## スタッフルーム

「みえ市民活動・ボランティアニュース」は、今回発行の8月号から全面リニューアルいたしました。ここ数年、親しみやすく読みやすい紙面づくりに工夫を重ねてまいりましたが、より一層みなさまに手にとっていただける内容を心がけてスタッフ一同努めてまいります。

リニューアルに当たり、毎月特集テーマを設けることになったのが一つの特徴です。リニューアル第1号として、今回は「在住外国人」を取り上げております。時代の背景や社会情勢により外国人を取り巻く環境は大きく変化してきており、三重県でも外国籍の方を多く見かけるようになりました。言葉や文化の違いによる日常生活での摩擦やトラブルなど、さまざまな課題も見聞きするようになりましたが、同じ地域に住む隣人としてお互いにもっと理解が進むようになりたいものです。

「スタッフルーム」も新たに設け、今後、スタッフから生の声をお届けすることができるかと思っております。(富田)

## みえぎんNPOローン

委託金、助成金等の受け取りまでの「つなぎ資金」として最高1,000万円まで無担保でご融資!

対象:三重銀行の三重県下営業エリア内に主たる事務所を有するNPO法人

※ただし、当行所定の審査の結果、ご希望に添えないことがあります。

“地域とともに みなさまとともに”

詳しくはTEL:059-354-7130(審査部)まで  
URL: http://www.miebank.co.jp



## 特定非営利活動法人

(2014年6月10日~2014年7月9日認証分)

①法人名②主たる事務所の所在地③活動分野④認証年月日⑤代表者

- ①特定非営利活動法人 ミスナ
- ②桑名市高塚町四丁目47番地1  
アクアエイト101号
- ③保健、職業能力
- ④2014年6月10日
- ⑤理事長 金村 炳植

- ①特定非営利活動法人 ONE
- ②桑名市新西方三丁目207番地1
- ③保健、職業能力
- ④2014年6月27日
- ⑤理事長 廣田 直美

- ①特定非営利活動法人 地球小屋メッセ
- ②名張市赤目町柏原2330番地
- ③保健、農山漁村・中山間地域、  
学術、国際、子ども、職業能力、  
障がい者の自立と共生社会
- ④2014年6月19日
- ⑤理事長 田邊 聖一

- ①特定非営利活動法人 世界のさずな文化交流協会
- ②志摩市志摩町和具570番地
- ③まちづくり、観光の振興、学術、  
国際、子ども、経済活動、職  
業能力
- ④2014年7月3日
- ⑤理事長 塩本 智幸

- ①特定非営利活動法人 shining
- ②鈴鹿市平田本町  
1丁目6番27号
- ③保健、まちづくり、子ども
- ④2014年6月19日
- ⑤理事長 岡田 聖子

- ①特定非営利活動法人 UDIほっとねっと
- ②四日市市別名3丁目14番21号
- ③保健、社会教育、まちづくり、  
観光の振興、学術、地域安全、  
人権、国際、子ども、情報  
化社会、経済活動、障がい  
者の自立と共生社会、多文  
化共生社会
- ④2014年7月3日
- ⑤理事長 伊藤 順子

転載を希望の場合は必ず「みえ県民交流センター指定管理者:みえNPO ネットワークセンター」に連絡してください。

## READER はこちらにあります。

【地域の市民活動センター等】(津市)みえ市民活動ボランティアセンター/津市民活動センター/三重大学/看護大学/三重短期大学/高田短期大学 (桑名市)桑名市民活動センター (いなべ市)いなべ市民活動センター (東員町)とういんボランティア市民活動支援センター (四日市市)四日市市民活動センター/四日市大学 (亀山市)亀山市民協働センター (鈴鹿市)市民ネットワークすずかのぶどう/鈴鹿国際大学/鈴鹿医療科学大学 (松阪市)松阪市民活動センター (伊勢市)いせ市民活動センター/皇學館大学 (志摩市)阿児アリーナ/横山ビジターセンター (名張市)名張市民活動支援センター/エコリゾート赤目の森/名張市立図書館/名張青年会議所/名張市総合福祉センター (伊賀市)伊賀市民活動支援センター/伊賀市立図書館/伊賀青年会議所 (尾鷲市)東紀州コミュニティデザイン (明和町)めいわ市民活動サポートセンター (南伊勢町)南伊勢町町民文化会館 (紀宝町)紀宝町ボランティア市民活動センター

【地域の社会福祉協議会】県内の市町社会福祉協議会  
【金融機関・企業等】百五銀行各店/第三銀行各店/三重銀行各店/東海労働金庫各店/県下JA/バンク各店/メディカルー光各調剤薬局

【行政機関等】三重県庁県民ホール/三重県地域機関(地域防災総合事務所[桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊賀] 地域活性化局[南勢志摩、紀北、紀南])/三重県栄町庁舎(情報公開窓口)/三重県総合医療センター/三重県立一志病院/三重県立志摩病院/三重県立こころの医療センター/三重県立こころの健康センター/斎宮歴史博物館/三重県立博物館/三重県立図書館/三重県生涯学習センター/三重県男女共同参画センター「フレンドみえ」/三重県人権センター/三重県身体障害者総合福祉センター/三重県環境学習情報センター/三重県立熊野古道センター/各市町役場/各市町中央公民館など

## 協賛

みえ市民活動・ボランティアニュース発行にあたり、協賛をいただいております。



環境にやさしい植物油インキを使用しています。